

平成 26 年度事業報告書

大正琴による生涯学習活動を通じて、大正琴音楽の次世代への伝承と芸術文化の振興に寄与する目的で次の事業を行った。

1. 大正琴音楽文化の振興及び次世代への継承事業

1-1 次世代大正琴普及事業

(1) 小・中・高等学校等における大正琴普及事業（大正琴寄贈・講師派遣）

①事業内容

次世代の大正琴愛好者を育てるためには、子供たちに大正琴音楽に接する機会を与え、音楽の楽しさを体感させる必要がある。加えて、大正琴が大正元年にタイプライターと二弦琴（八雲琴）を掛け合わせて発明された、日本固有の楽器であることを教えることも日本の文化を伝える教育となる。

そこで、当法人の社員等から使用しなくなった大正琴を譲り受け、メーカーで修理し、再生したものを全国の小中高校等の教育機関に寄贈するとともに、社員を講師として派遣し講習を実施することにより、大正琴音楽の素晴らしさと大正琴の歴史を次世代に伝承した。

②実績

- ・ 90 台の大正琴を 30 箇所の教育機関へ寄贈した。内、メーカー無償修理 10 台を含む。
- ・ 46 箇所の教育機関へボランティアを含め延べ 1,205 回の講師を派遣し、682 人が継続して受講した。

③成果

受講代表児童から講習に対する感想文を提出して貰った。感想文の内容から、大正琴が日本固有の楽器であることを理解させ、大正琴音楽の奥深さと楽しさを知らせたことが確認できた。

(2) 全国子供大正琴コンクール

①事業内容

次世代の大正琴愛好者を育てるためには子供たちが継続して大正琴音楽に接し、成果の確認や目標となる発表の場を設けることが大切である。

毎年 1 回全国子供大正琴コンクールを開催し、大正琴音楽文化に接した子供同士が交流を図る機会を作るとともに、切磋琢磨することにより相互の技術向上を目指している。

全国から一箇所に集めてコンクールを行なうことが難しい現状を踏まえ、一般的な会場で演奏を披露して審査する形式を「ライブ参加の部」と定め、これとは別に、会場に来場せず録画映像により審査する「ビデオ参加の部」を設けることで、地方で大正琴音楽文化に触れる子供たちにも目標の場を与えた。

更に、入賞者に当法人主催の演奏会において、発表の場を与え、世代間の交流を図った。

②実績

日 時：平成 26 年 8 月 23 日(土)

会 場：ウィルあいち ウィルホール（愛知県名古屋市）

参加者の範囲：全国の子供たち

参加人数：ライブ参加の部 21 グループ（個人） 95 名

ビデオ参加の部 41 グループ（個人） 281 名

入場者：200 名

最優秀賞入賞：7 グループ（個人）

③成果

当コンクールに 62 グループ 376 名が参加し、日頃の練習の成果を披露した。

子供たちの演奏技術は回を重ねる毎に向上し、大正琴文化の向上に繋がった。

今回もインターネット配信を行い、全世界にコンクールの模様を伝え、さらに、最優秀賞及び優秀賞に輝いた受賞者(個人、グループ)を当法人ホームページに映像で掲載した。

1-2 大正琴演奏会

(1)平成 26 年度大正琴定期演奏会

①事業内容

社員の指導するグループが出演する演奏会を開催し、参加者の大正琴を楽しむ姿を確認するとともに、広く一般の来場者を招き、大正琴による生涯学習活動の効果を知らしめ、より多くの方々に大正琴音楽の素晴らしさを周知した。

更に、社員を中心とした高度な演奏技術に裏打ちされた演奏を披露し、日本文化としての大正琴音楽の芸術性向上を図った。

②実績

平成 26 年度大正琴定期演奏会

日 時：平成 27 年 1 月 24 日(土)

会 場：ふくやま芸術文化ホール リーデンローズ（広島県福山市）

参加人数：26 グループ 883 名

入場者：450 名

③成果

当演奏会に、子供コンクール最優秀賞受賞の 4 グループ（個人）の子供たちが特別枠で出場し、音楽を通して世代間の交流を図るとともに、子供たちの大正琴音楽技術の素晴らしさを披露した。

当日は、開演から多くの来場者が会場へ訪れ、開催地域に於いて生涯学習の効果と大正琴音楽の素晴らしさを周知し、大正琴音楽表現の向上に寄与した。

2. 組織活性化事業(普及功労者表彰事業・機関誌の発行)

(1) 普及功労者表彰事業

①事業内容

永年にわたり大正琴音楽の次世代への伝承と芸術文化の振興に努めた社員や功労者の榮譽を称え表彰した。他の模範として知らしめることで、社会的信頼を確保することができ、社員の参画意欲を高めた。

②実績

平成26年6月4日名古屋ガーデンパレスで開催した第2回通常総会会場にて、指導者として永年にわたり大正琴音楽の指導に尽力した者19名を当法人の規定により表彰した。

③成果

表彰により、社会的な功労が公に明らかになり、大正琴の指導活動や演奏活動などにおいて社会的信用の確保を図り、大正琴文化活動の参画意識を高めることに寄与した。

また、活動する事が評価されることにより、一層喜びや生きがいを感じ、それがまた次の活動に繋がった。

(2) 機関誌「協会たより」の発行

①事業内容

法人活動の結果報告と事業計画を周知し、当法人の活動が円滑に運営されるようにするため、年1回「協会たより」を発行した。

②実績

平成26年9月に4,500部を発行した。

③成果

当年度の当法人の事業を詳しく紹介することができ、協会案内、ホームページとの相乗効果により、当法人の活動に対する社会の理解が深まり、各事業が円滑に実施できた。

3. 法人維持管理事業

(1) 「協会案内」の発行

①事業内容

印刷物による情報発信により、大正琴の歴史、当法人の沿革および活動の理解を深め、当法人への支援を促すとともに、大正琴音楽文化の振興と伝承を図った。

②実績

役員改選および内容の一部見直しを行い、平成26年6月に5,000部発行し、当法人の事業等において配布した。

③成果

当法人の沿革および活動の理解を促すことができただけでなく、これにより各

事業において関係者の一層の協力を得られた。

(2) ホームページの制作

① 事業内容

ホームページを通して、大正琴の歴史、当法人の沿革及び活動に関する情報を提供することにより、当法人に対する理解を深め支援を促すとともに、大正琴音楽文化の振興と伝承を図った。

② 実績

役員改選、「お知らせ」ブログ記事のほか、昨年度の活動を踏まえ内容の確認を行い、ホームページを更新した。

③ 成果

ホームページによる不特定多数の閲覧者への情報提供により、当法人に対する理解を深めることができた。

また、ブログによるタイムリーな情報提供により、協会事業の紹介ができただけでなく、各事業への動員促進を図ることができた。

平成 26 年度事業報告附属明細書

平成 26 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので記載事項はありません。